

ウィスコンシン大学研究者ら、授業料以外の経費を大学が軽視していることが
大学卒業率低迷の一因と指摘（3月3日）

センチュリー財団（The Century Foundation）は3月3日、ウィスコンシン大学マディソン校（University of Wisconsin-Madison）のサラ・ゴールドリック・ラブ氏（Sara Goldrick-Rab）とナンシー・ケンドール氏（Nancy Kendall）が執筆した、大学進学に要する経費に関する報告書「大学の本当の価格（The Real Price of College）」を発表した。本報告書は、大学卒業率に関する研究シリーズ2番目の報告書で、大学は、住居費や食費などといった生活費や教材費などを軽視しているために学資援助支給額が不十分で、その結果、学生及びその家族の経済的負担を大きくし、大学卒業率が低迷する原因に繋がっていると指摘している。同報告書が提案する解決策は以下の通り。

- ・正確なコストの計算方法に関する明確な指針を大学に提供するよう、連邦政府に対して強く要請。
- ・大学入学から卒業までの予算を詳しく説明するロードマップを学生に提供するよう、大学に対して働きかけ。
- ・学資援助を受給し続けるために、学生の学術面での進歩を継続させることを大学の責任とする。

なお、本報告書は、<<http://apps.tcf.org/the-real-price-of-college>>から閲覧可能。

The Century Foundation, The Real Price of College
<http://www.tcf.org/bookstore/detail/the-real-price-of-college>